名所入繪難波鑑 一 三

162
令2
91

162-91
1200800243039

名所絵入

類聚瀧

表上

巻一

雖後かとみしう紀蓋れ如しの海と
ゝまゝのもゝ組うもめんと船乃
絶のうち枕夢れらき橋のあやうきさ
とゝうゝくゝ住れこの岸よ
ゝ後ゝゝゝゝやゝ秋空鶴く松れ戸
行る月をおしゝ雪こゝめて打若
のうゝりりりをゝゝれ色野春ふく
咲やこの花と栄しゝ去も芦の粘

大正
13.6.13
内交

蒙は秋成しかも田舞の源氏富乃
かゝめ小神うらふかしの蓋は
煤幕まく思ひ祈法蓋
祭礼佛圖は清法寺たゝかも也
三志のいくらかは鶴去明う四季
物祝は準へかけまくも辱も畏や
けしとは年中行事をらまうれたり
まくへまとゆきもみれたは川遠き

わらはは三年の清ありさ爲年く
服の金和れは法書は物をかりて
今ちうちもの行末のかみ
まくはなくゆもこは世はうくた
ひまるくいまはしくうちもあん
かとまちもなは影良は藻
くりをかきたつめしは祝海をし
模陳の長はるまをも和

162-91

とうとう鞍馬鑑と名つけれも志ゝ
家ゝたゝらまを拾へきまゝ孫ハ
梓小槌めの文字乃俤ハ寿厳氏小
俤りなるべし人〻をゝ〻しく行へ
ちゝ

延寶八庚申季孟春上旬

一条軒　道治輝

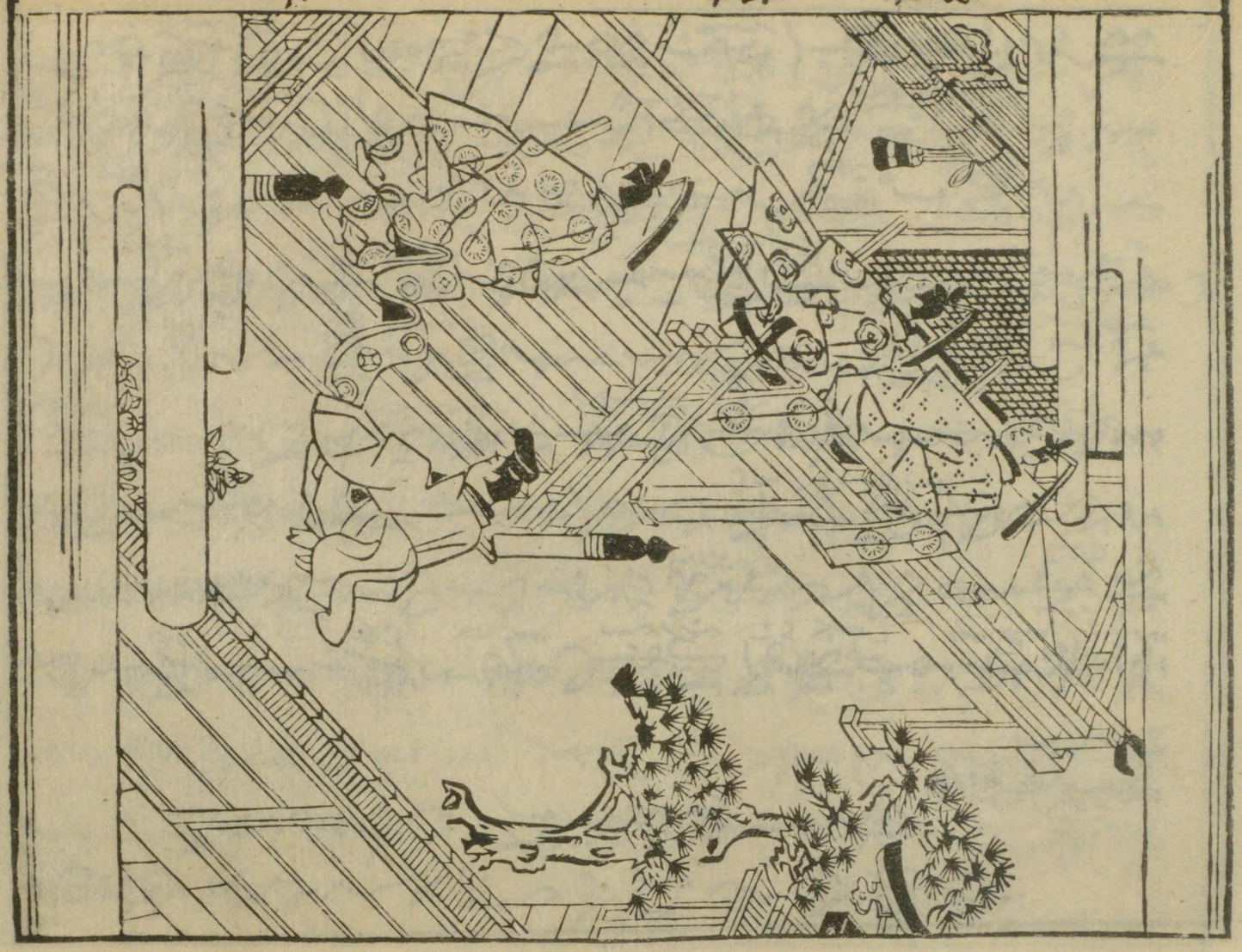
氷様　并若水
正月と云事
門松　并歳末竹葉木松ぼり葉傳鬼のゝ
住吉明神御供　并門松御供　附住吉橋本
聖徳太子御精進供
餅焼事
速打豆　并胡麻抜被魔ゝを祓事
庸蘇自殺
道祖神祝芋事

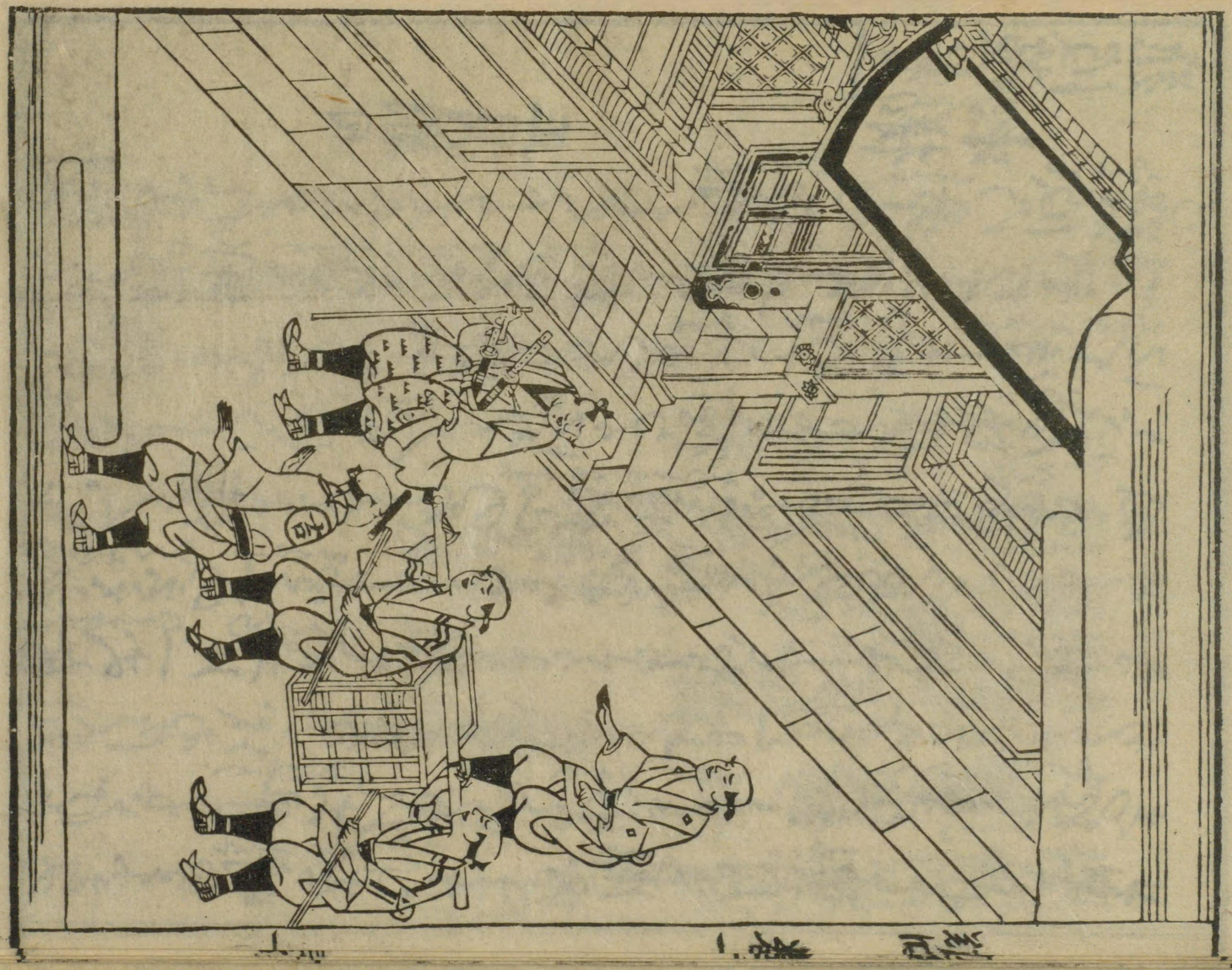
住吉社の神事　附七草
大融寺冨之祈　并卯杖
神宮寺業師講　附冨士の事
住吉清らう
東大場右衛長
住吉粥の法　附茅巻

雜波瀾第一

氷様

○雄略の帝の治時ちかぢかめてまさしくまれ給ふ。仁德天皇六十二年五月よ。新田左中将貴。陸奥の国よりこころざしよ。出羽て。山よりくだり。野中をたんやうと行ひうば。屋代はとりうちかはらうに足病おこり。蛇よ。屬のりとり。その時彼山のあるじよ侍べりを。めしてどう問給ふよ。氷室はいかゝとと。答子の云そ氷をは。いう様よしておきあるよう。答て云。土代一丈余ありて。第を重ねて。第蓋をもつて。よふきさて。第蓋をもつて。よふきさて。凍を重ねるよ。氷ているれ大旱もぞげを。見をとりて。樊月よ。風ふるとそむ。其時答子の





水と。仁德帝へ奏ひけるに。紫威あるとも
と。見れば水を。なでつゝ。そゞめ。
とゝ。問て。ものゝ。水を。
家よりて。水極と見や。水の清にして
古法秘法おこなひとぞ。四方に流れ水のあ
さ。爲さるして。豐年西年を奏聞せしめ
こゝろのすなほ。像あるゝ。見と。
水池ともいへり。ぬるゝのられをなりとく。
延喜帝。水池風神の祭と。
やうで
年中行事
今日は。
水池乃ゆれふりため。みを入

○降若水
○玄年。清生家のくれ。井をそゝぐ。ぬるをして。
問くまで。立春乃日。
てまつれば。
乃秋氣を。
りれとゞろ。
めばの水とは。

正月と云事

○先ゝの初月と。正月とは。秦の始皇帝の月
よ。始まり。さきバ。澤地の月なるよりて。
おこなゝゆゝよ。
ゆゝよ。陰陽。

ひとくさとなりて正月となる
今は正月ハ雲旦の法にて
乃世の例なり殷の代の月建ハ世の月今は十二
月よりこの国の代の月建いまの月今は十一月也
あ玉を唐の正月といふこのゆへなり
門出ハ年歳竹素木ゆづりえ陽縄のこと
むり素戔嗚尊ハ南海へかくれ給ひ時宜氏
巨旦ハ米ゆへ蘇民ハ米宜
とりそなへまつりそなへ巨旦をさ
そ家をわろぼされ是ハ後の年てのさるよやん
して巨旦ハ善人とよ生らまたまの始まりとなる
門出ハいとあるとこ

まうあけてくよ和やかうまわ年
まて歳らくをぐおい巨照を出華の心を勢とこ
らしかぜいまもする年くかと作いまるはかるる教よ
乃清よすぐれよいひをてくぶろう葉柔梅づ美い。
雪霜のもちやよしまぐらいをもくねぐてれりく。
うぐり魂いの海を踏だくて正月の祝をおつる年
ちまくく

信吉明祝法儀　并内侍局法儀

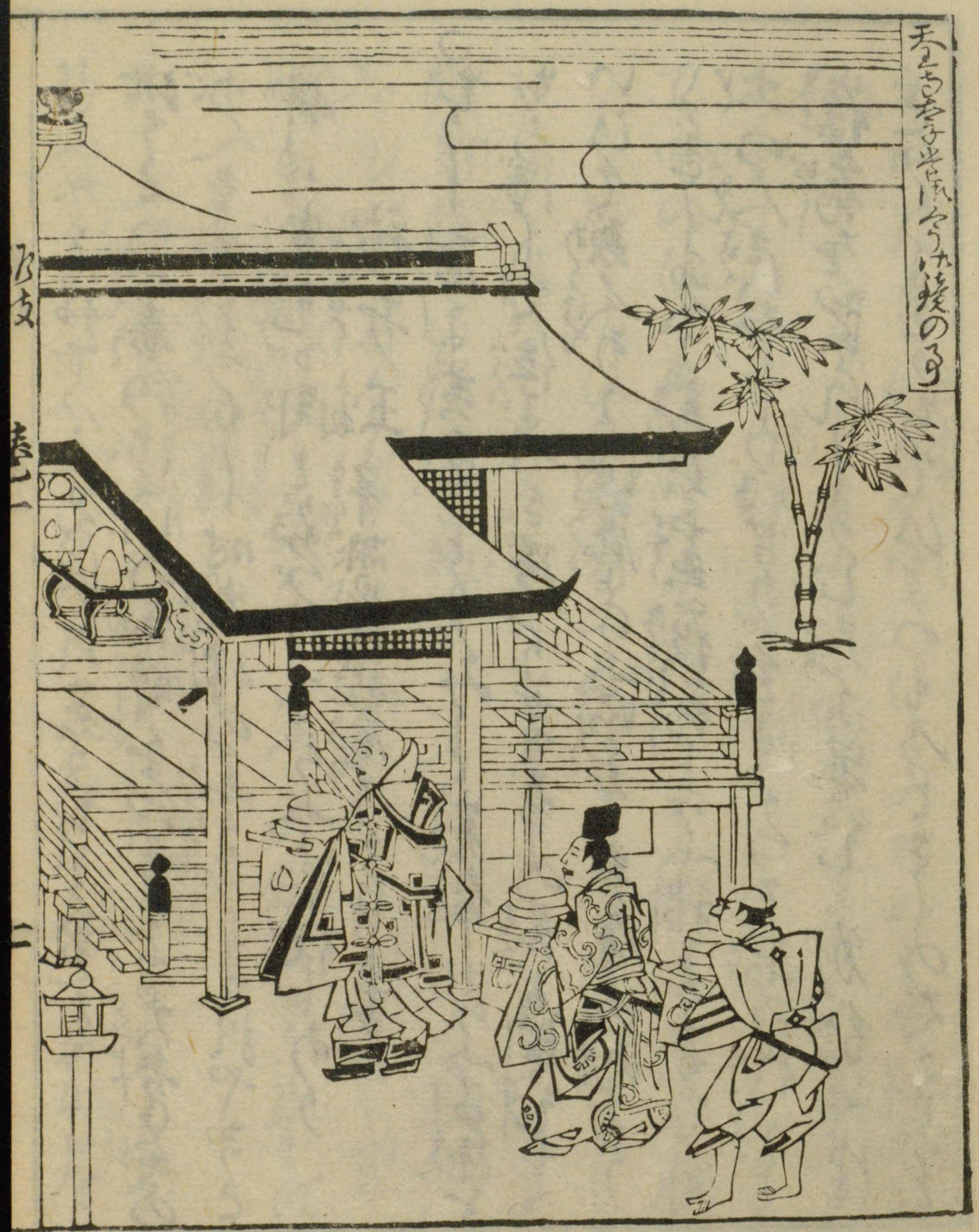
同朝日

○祝を大海日よりの祝敬敬。系義して元日卯の
刻よ。一の祝敬へ出仕して清精を儀を献まくる。
拝清を可ちまの年都わりて殿合意あり。毎月一日よ
も。儀きくくと刻一の祝敬い。尼筒男命まて。

天照大神宮まくてつくく。兜卯内侍
所の法儀よりぐらふ。拝内侍局ふ。三種の
祝器のそれ一ちまの。照大祝あまの男子を。
さくく敬ふ時。清ちまの分きあまの。日祝の
ちくちの燈くあり。兜を八咫乃燈くなづむり
祝燈とび出て。ちまあぐ
乃神よ。けちりてとめりくわて。公内侍
所い。女官の宇儀くれまれる。御儀い。寅年
年中よちぐ氏の美清四年正月十五日紫裏
紫上の時てゆ人ちく。尾のよ拝まれいぐ
ひたのよ。ちまくく拝くまけさ分ふて。還幸を廣殿
ようくく殿をあくそあられ。同二月十八日渡市

○むかし祝木をぬすみ切望に同心して八十余般の
後年物よ。陽伏して。こゝ
所ゆよ。数れをつゝ家内のよ。お米せしよ。物する。
見いた年の物をれば。道の紅れら積中して。
なりりるくに見よりあて。祝門よ。祝をもしたや。
うるりてくに紀物をもい。正月の蓬莱の組物も。
物をうざるも。ゆんあるくやや

家園よるるをちの花乃い祝られそ
もゝ祝の祝をあるそもゝ　野仲
智慧太子御精進供　同朔日
○正月一日より。同十一日まで。毎月清精を供をもて。



年の御賀年歳ごとやまうと元日まゐ清涼殿にい
らせ給ふ。雲客殿上人よおのゞ席もとれなを恒例とせり。
さきゞ出ばかりの。用ゐる幕の帳台幕の儀
ゆゑ出ゆゑ。同じ人の家に石清水詣をい。新用てるを三年
三度正月一日。清涼殿戸の前にて。清酒やう。
さゝるよりて。一盛乃まゐとゝ

餅

○歯固といひて餅ゝをむすぶ人い歯をかた
かとゝもとゝゞゆへよゝらふ又なを片ゝひもよもとへ。
歯固い。数をゝむかい心ゝ。餅い五色の色切の餅
を用べきなり。御境よりふ時。酒をう頌あり
古今集 あふさ山ばえそゝれい

うねてうつくしゆゝしきうちに物さ
びたる。遊女の洗門の時を見るに大夫屋の
ゆべきやうにつくりし時。太夫の思ひ
餅に米ぬが関と。ぬづけてらふと云説もあり

玉 手胡蝶 秋篠 魔うち物つく事

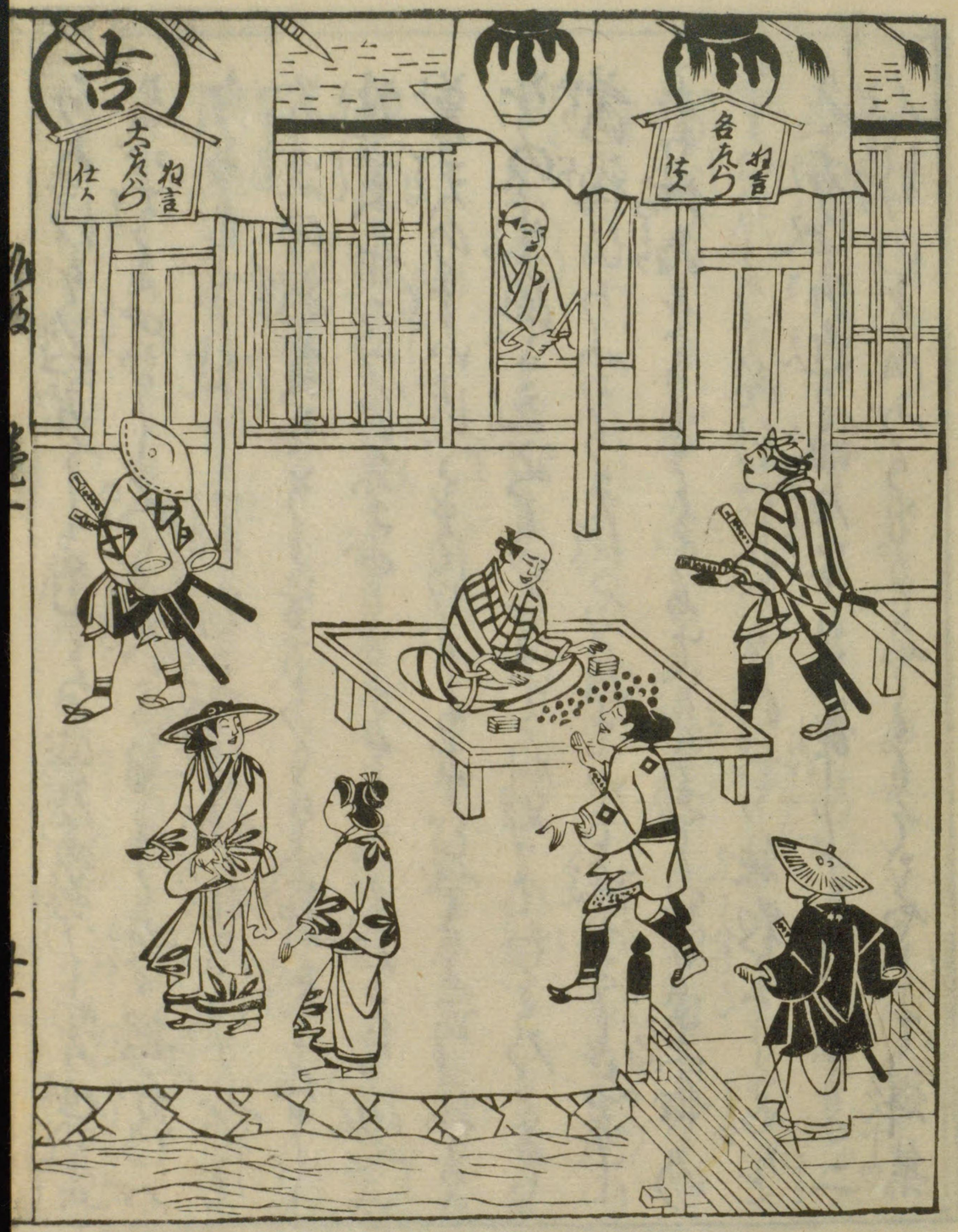
○むかし唐より茶帝とゝ
みて茶帝とゝ
ちうばして。位をつき給へり茶帝の后を
いひて。恋人あり。鹿とゝ
ゝ
ゝ

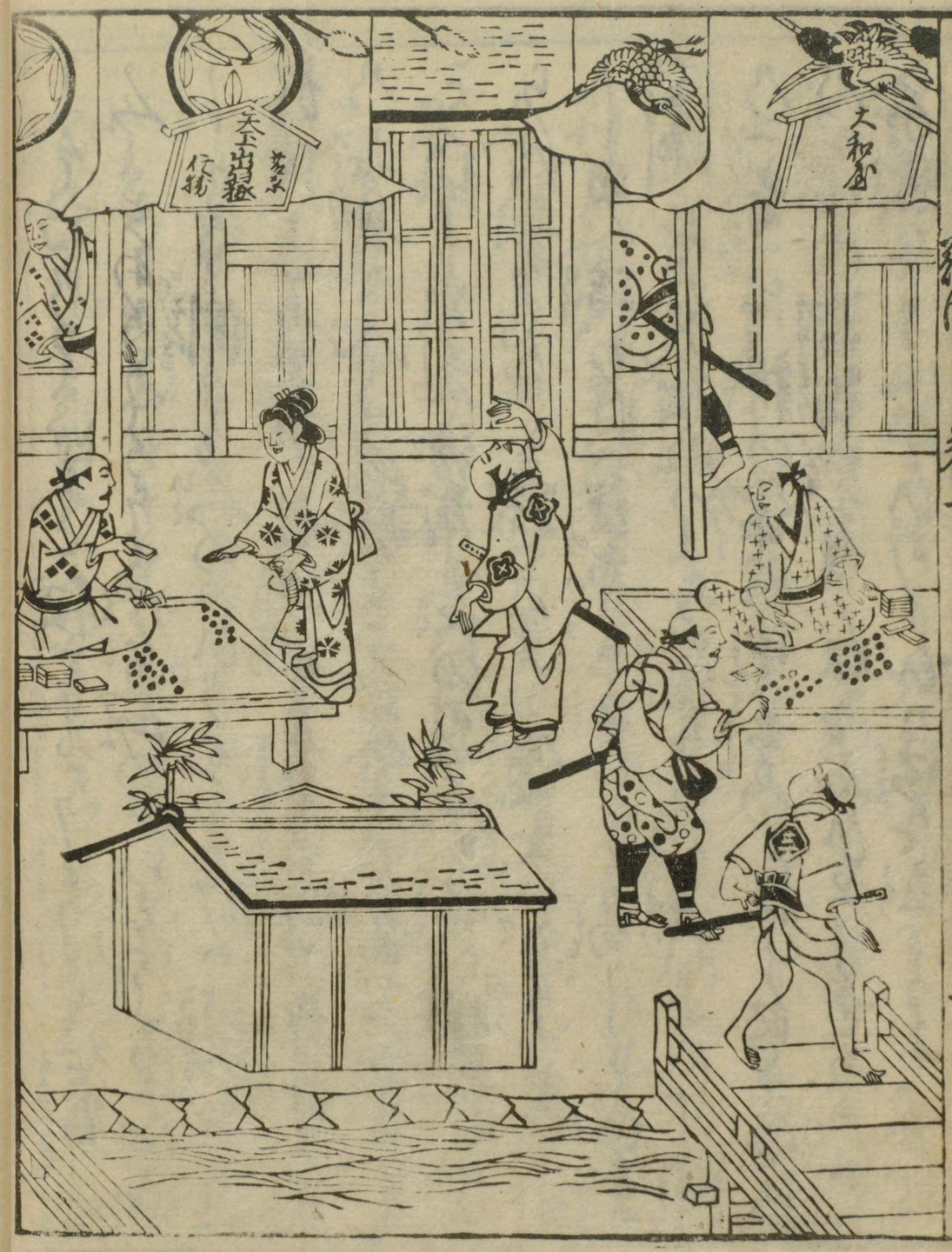
乃めば。一里塚。弓場。射的。茶屋。酒肴。
菓子。さらめさらめよ。来源推量。
まして。酒よいき。清涼激。
まして。酒少。女ち。菓子。紅
やうにたりなちめ
つえつくしさ
遣水場物芝居
○物芝居とらやも。ぎめ
乃如場にのり。波。ちち
きつ。田舎のもの。
塊よ。年寄提。
みは。ちさ。やうちや

新嘉言
為秀

[illegible]ぐ。[illegible]より仰せ[illegible]拾俵[illegible]の名[illegible]ぬ。[illegible]
どもどもの乃ち代。奥[illegible]の此[illegible]そんじやう世
しとぷかうとつくるに[illegible]ぞくまわもぞつ[illegible]。[illegible]
乃わくるよ。郷[illegible]して[illegible]米[illegible]のあるもつり。
[illegible]ふくち乃。[illegible]をくるよ。[illegible]ぬ[illegible]
人[illegible]。[illegible]そしと[illegible]ぞ[illegible]。
足[illegible]。[illegible]ぶ乃山代山[illegible]もぬ[illegible]代[illegible]の
ちげたより[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]乃足[illegible]代[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]。
[illegible]の[illegible]。[illegible]ぬ[illegible]べ[illegible]。
[illegible]ぞ[illegible]。[illegible]入[illegible]。[illegible]。[illegible]。葉[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]。いまど[illegible]ぞ[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。


吉
大ゑら
仕人
物言
各ゑら
使
物言

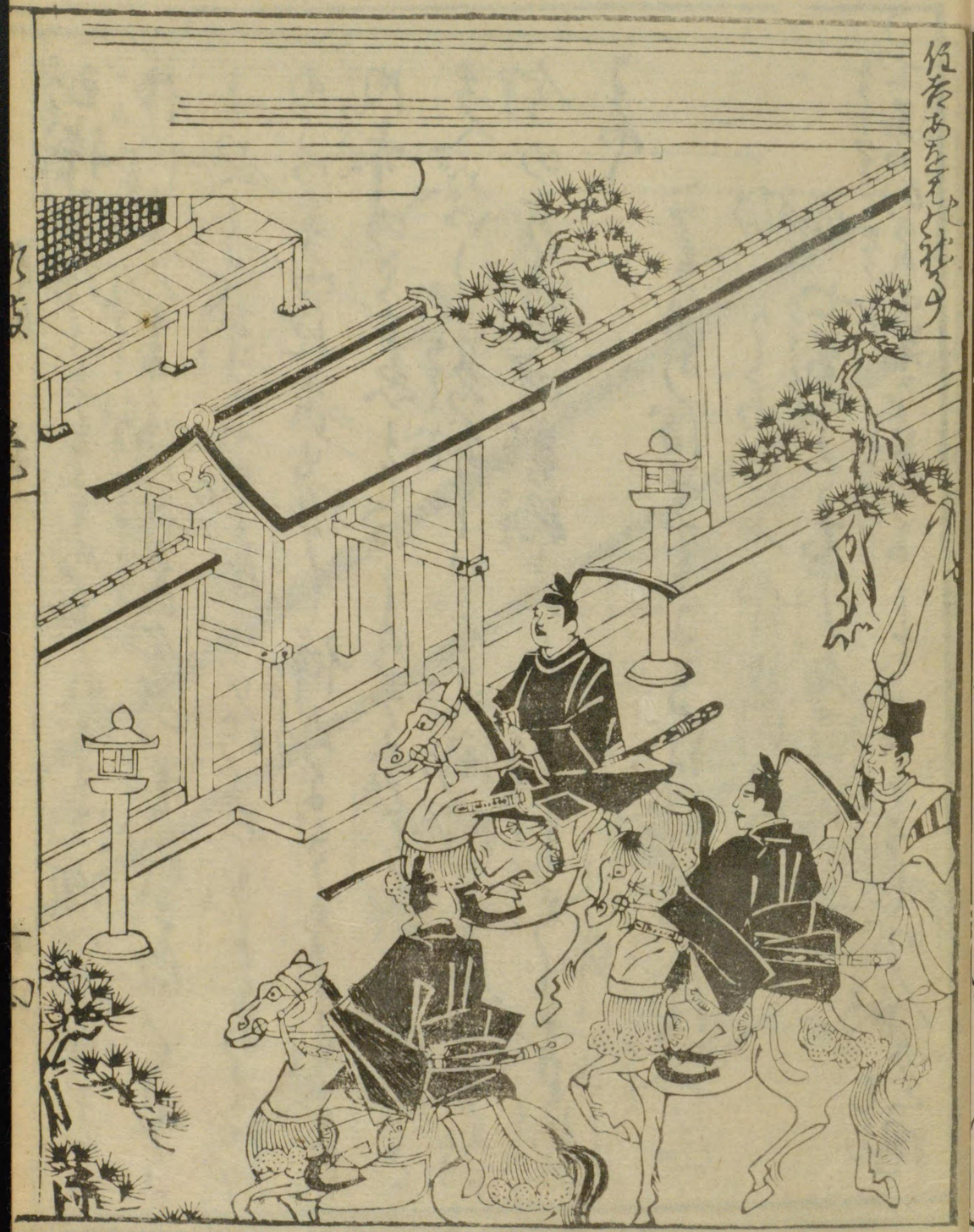

大和屋
大工出張
仕物
茶屋

ちろばをひとえ多くしてさるるはのもとじめの紫なる
きばをよりつくとおいを多くよりて淵の撫子の
ちるやまぶきの。たゞ一茎の新芽をえらび初秋の
ふるの。新穀をそなへ多くとりて野をとりて
強美を花をつけふるまでさぐり出さる多くへい。
美天のトいばくまつかぐやまひべきをひつ和ず。
なのゞ生涯よりえうつぺんもいえれぬてひごろをそ。
蔵稲ひろふのりさ海ぷんつるめもいと懐ぐてつ
もわ。ぬ乃をそこ〜〜〜あてだりちうれども美花乃
てい。ちつめさ多行りねばそれちち絶れをふる
ひ。右を左近ゞ海乃そぐりを舞〜〜ちつてこ二
人新のまひぶりもうくやしりてやして。詩集

ぬ〜ぷ〜〜〜〜〜ちぐめよ〜〜〜〜乃ぐをい。
遊つけちぐめわさてちうるのくうをぷやせ。
ぬ〜〜のよいひい。二八ぐちうの鶯ましてやよ〜〜ゆる。
楊柳のちうゝ多よちぐふ風ましてやよ出ちいてや。
ちくおでやつてひつてぬでいたゝ。ぬ春を宣花の
沙米遊ちもいさちるよむりひ紙ちうゝ多てよ
めくぐ多して。ぐちびるめうるいぐ多てさるぐ
春花の一枝春ちよちろぐうしてれりつちかつて二九
ぐちうものちわちとカんゝぐはぐひて出ればい
洞庭の秋月用ちくおむれもおうぐふ海も
ようちうふちものや春の色ぬあそひ水とつう
ちいぐきもおちうゝ中よ。雲ぬい。二月の花

ちもつきるの外なうらていたまりしたもあれど。
そのをといそぐ凡人らの百よりてをまよ。ふ歳のう
きひをいそぐ世の中よ。何う男色よめで。極楽と
僧侶んやさきどしも。和尚のそふをえるよ。
ざしめてうきてをまてわさるたまぐもえ。
いあんまい。仏神の本縁をもうりあじへうまひ
けきびんもおりうげうもいつきづうまいつうら
今ふいをうまよをうるさのふ大坂のうらあるを
しうけふいちやうらうう。意義変世をて
と。和尚よしてそうへのあばきしてそきていひれば。
人ちををおりうげうわさいたねのうちい。云
よ及びそあんを遠た縁まてもやうん。そう親よ。

和をあんうていうぐうの親そうぐやうつて
きれてそうとおりひて。代初やの姫そこ作
つきそうて初見ん。代初やの姫そこ作
人のをあれらきてぐ分をきうでうう。役
ちんよそうきうあきまりきて。姫ひ出うう。
いぐうきひてしうをを。侍そうのまうふて。
ひぐれおうてだと感じつ。作のぐさてい。
姫じて。姫たとれうん人の心づひあうづたんぱ見
きうと。そう人まうべけきて。意義のぐてをうよ
つもも心きれもそうをつけ。もまこやせ屋ぱ
ひびてもそふまふ。情もけてもやそこのそれも。
をのづそをつうう。迷見ん和ちんと。云して。



立ちつるまゝ行うつるうつ

任官白ゐる神事　同七日

○今日一の神殿へ清進使を使へ奉る神前

をして白ゐるの神事として神殿の案内ありし時

神主一族社官社僧人へ下よりてで出仕し

うつうつ柳白ゐるの景色しつゝ。月よりをうて今

月おこなつつ。時の景色をうつゝれるかや。是ハ五武

天皇十年ましまゝ。ぬ。まわつ。るハ湯の敷をうまは。

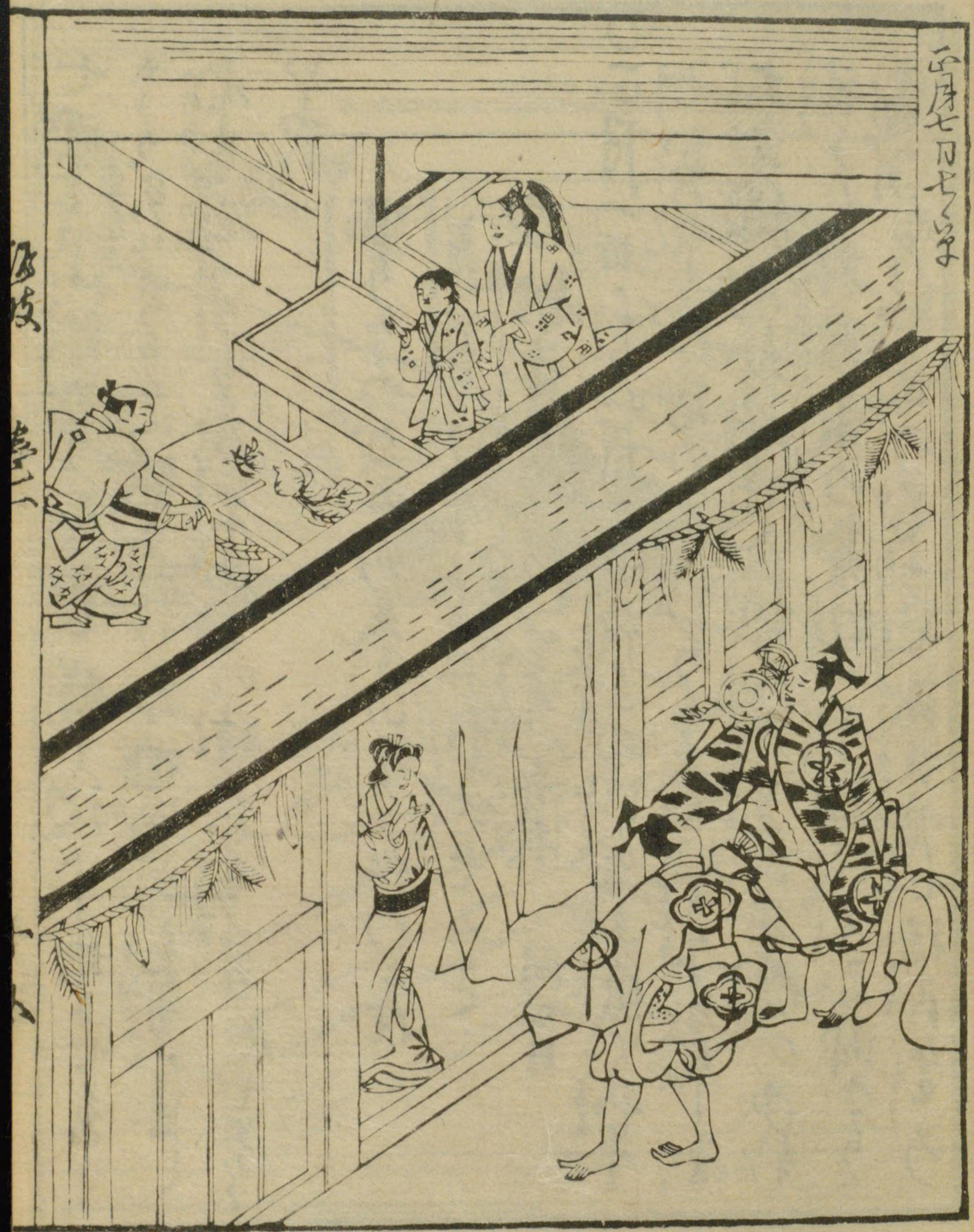
まゝや。是よりて。正月七日よりまるをうれば。神

乃和氣を除くとうて。

震激よ。出市おうしめふ本うの作るんぞきいるとせ系

ましてゆるを清潔あるや。

高よりてのうゝ。此時の出仕をうつゝ。此下へも



玉神を祭りてまつるぞ。法則いと日まで。
門よ八事侍りの。義式さ面くあり
といへども。年中下面のりちぎるとあり。
あらまつ花もちし。俳事よさそ行ば。
門松のこゝろをいしふ。おろもうんめるとのこと
まへばいしの為とくゝ風門をいるまあ。
今のらづへの書初ようふいと。えべ行ら

こよひあ面芹こよるは引めもは
ひらりこゝみつやはつ門
陽七草こ事
○七草のあ事を美りよして。答まろしぶ人ゝよ三稚

七燈とゝふ神あり。そゝよ七燈と
ゝ。是をとりて服すれば。赤裸の乳力をほし。
命を延ゝ。ゝ。宋の時ゝ。ゝ。七月
いゝ

ぜりちゝ。ゝ。ゝ。仏乃在
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
太龍寺富ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

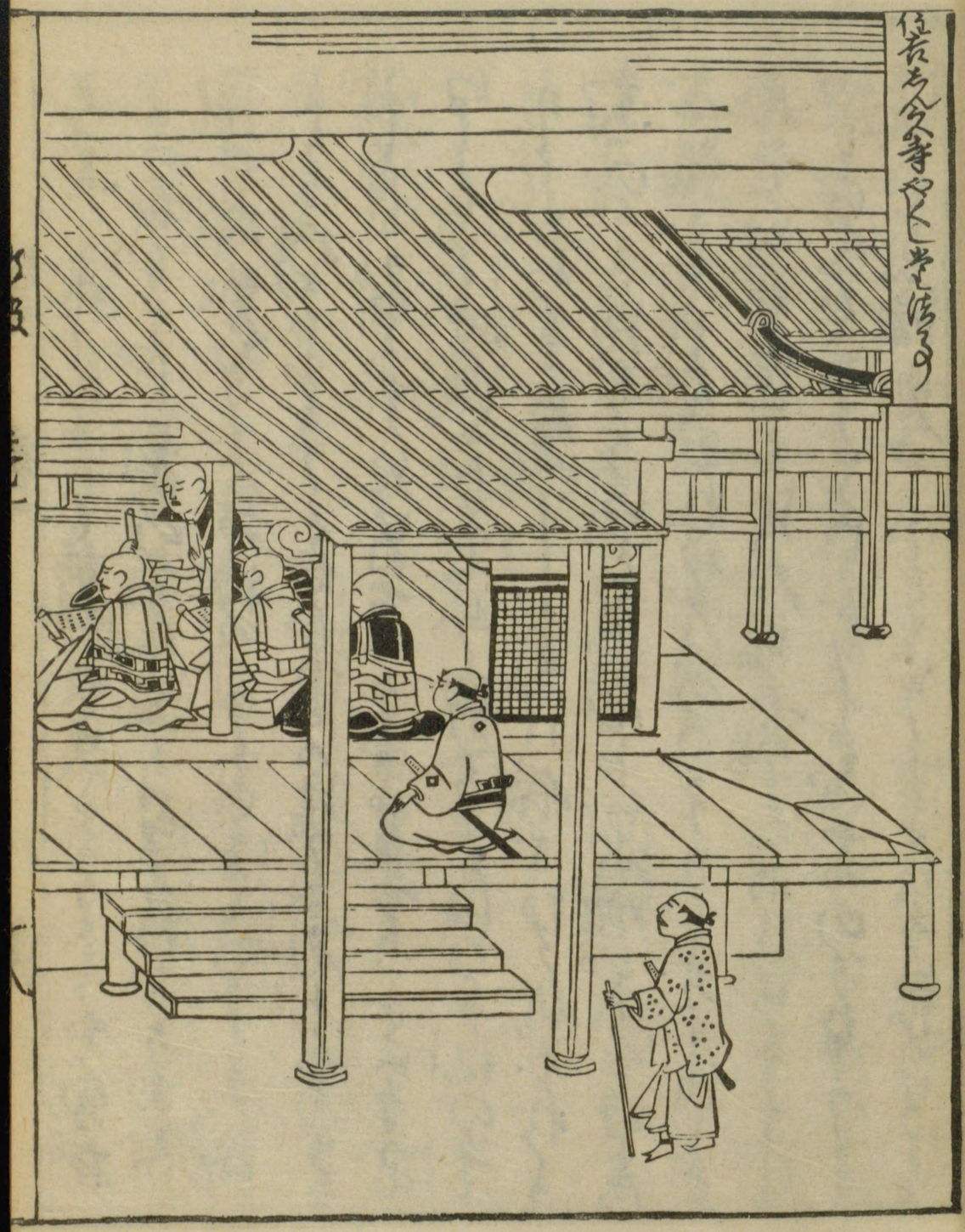
[illegible]

[illegible]の猪の猟法を集ひ教ゆるの図説を[illegible]
[illegible]ものなるべしいづれも前後なる
[illegible]ばかりなるもあり[illegible]猪を追ふをい
て正月より他国へ[illegible]猪牡とゝまるものを物し
[illegible]の類ひとしく記ふ
きこと[illegible]内よりても印牡とゝまり記は
指流[illegible]正月乃印の日[illegible]
[illegible]日牝[illegible]
[illegible]時ぱ[illegible]牡をとゝめ
印牡い印のうへ向ひ[illegible]猪のえご柳のえご

[illegible]の牡猪のえご[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

神宮寺薄　附墨子事　同八月

○正月八日[illegible]
人[illegible]猟法[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



左衛門のすけ殿の御をはしまむや。
おろそかなるのちうしろ。帯刀勘解由まいりて富
清らいはぎもとりてうちとりてよ
住吉のうれしさの嬉しさもかぎりなし
富士の御ぬしひやうたう第一
なるうへに富士うとうもぬしの
御うれいをうけ給はれば。富士うとうもぬしの
つを。清らいはぎをとり勘解由おろしまゐらせよ
そもそもいかに富士がうみとうとうとうとうと。
ちうとうと清らいはぎやはりひもし富士とおつまつて。
うちゐ御ぬしと書おいた。巻にたしに富士がうつ
うのおそれを。清らいはぎ。第くの御のうちうに富士い。
清らいはぎうとうれめう形見の色ふかうとうはぎ。

[illegible]ことにつづきて。[illegible]やうなる。[illegible]
よのぐりし。[illegible]のゆめ。[illegible]ゆめ。[illegible]
風の[illegible]。[illegible]を。[illegible]ふ。[illegible]神の[illegible]。[illegible]
きるわ[illegible]。[illegible]ふりの[illegible]。[illegible]
しもあ[illegible]。[illegible]ぶ。[illegible]ちどぶ。[illegible]
ゆんと。[illegible]ひ。[illegible]
りもめ[illegible]べし。[illegible]い姫よ。[illegible]ひ。[illegible]れる
[illegible]の。[illegible]ん。[illegible]姫。[illegible]
[illegible]神。[illegible]れ。[illegible]ひ。[illegible]
[illegible]。[illegible]ぶ。[illegible]
[illegible]。[illegible]ゆん。[illegible]

[illegible]ん。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]ゆん。[illegible]れば。[illegible]や
[illegible]。[illegible]みを。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
いとありきたるぞや。[illegible]。[illegible]
[illegible]。

今宮恵比寿祭　同十日

○[illegible]宮を[illegible]。[illegible]ゆん。[illegible]
あさ[illegible]の[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]市。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]

同十一日

○きのふ。きのふとて。商人の家よ。仕ごとをこたりて。
していふよ。貝や。ぎり。ぎりとて。ちなの門
ぐるよ。物を撒らふもよりて。ちのはちわ。
物をあきなふ家よ。門よ。作をして。幕なと
をうてぐらうてのきいそ。ひうてのちとびちて
ぐるしうてうて。樂家よも。古地蔵しぐして
作らうて

同十二日

○今日五ごつ。弦宣出仕して。南の
信殿よをうて。饗膳しをうて。客の朗詠
よさうして。二人つぐるぐるよぐをいる。客義

武家間やむかしハ。若狭侍の神事として。御
子男の形となりて。弓箭を持て。射場に出る
時の義式なりしか。聞紀よりくらし。是なのを今は
中絶なりける也

東寺道場左義長　大坂町中にて　同十四日

○東寺道場に。今のまへ代ふかなかりし。むかし左義長の
御所時代迄はそて。左義長もあるもしゆへまつくりふかく桥
左義長も代おもりハ。漢の明帝の時ちりめて。天竺より
仏法ちらみる。道経の道士是を焼んと祈るまわ。
を其ちりたるとして。仏経をひらきよ。道士の書を
たがひに火にかけて。仏ちの書。焼失せざれバ。
右の義もありとありて。左義長もとむへりしまくし。

那城義もや。東出やしてい。那城仏法の義
もやうして。東土。宗部ぶてたるもの。
又外異經よ云一両方の山中ょ有人。竹一尺餘人見
て。刑病を熱石田山躁ゴ竹燒炎爆烈有後
刑罰去那其て。正月ょ。燒爆竹ニて
おおー

除百鬼

○今の世百鬼ありて。門ごとを。ひあるくものあり。
見い。踏ものうらをあ。百鬼ふ。ひ。
その生魂解を。ものうょ。今日年頃の行列を作りてと
ひょう。ものうと。畧踏ものうとあ。刑ものうと。
もつく。見刑。物語おもこのとあ。

る巾子縮の袈裟をはくれて。こゝ乃とれうきしの
ゝゝたゞゝゝゝゝゝ。天武天皇を望ゝまつるゝゝゝゝゝ
ゝや。孝武天皇天平の比。跡部の命をして。
禄をそなふ。仁義礼智信のみつの綱をさ
ゞゝまつて。絹布綿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ